

## ブロードバンドにIP電話、 次は、映像？それとも…

東日本電信電話株式会社  
コンシューマ事業推進本部  
ブロードバンドサービス部  
フレッツサービス開発部門  
狩野 利之



### 光ファイバとIPによる トータルサービス

FTTH形態のインターネット接続サービスであるBフレッツサービスが提供開始されてから約3年。

現在、集合住宅向けIP電話サービスの準備が進められている。これは加入電話と同じ番号を持つサービスである。これまでインターネットの利用環境を中心にブロードバンド化を進め、最高100Mのインターネット接続サービスを提供しているが、トータル（総合）サービスの提供を開始するという点で大きな意味があると考えている。

トータルサービスとは、いくつかのサービスを光ファイバに重畳し、統合した利用環境を提供することで、光ファイバの高速広帯域性を活用したサービスモデルのことである。ユーザーには割安感を、一方キャリア側にはネットワークの効率的利用と高いARPU（Average Revenue Per User）をもたらす。

光ファイバとIP技術を使ったトータルサービスの代表格はイタリアのFastWebが提供しているもので、

昨年実際に現地で話を聞いてきた。サービスは、電話、TV、インターネットの3つ（トリプルプレーサービス）が提供される。

このサービスの注目すべきところ、トータルサービスといえるポイントは大きく2つある。一つは、いわゆるネイティブなサービスが提供されていること。ネイティブサービスとは、現在広く一般に（IPベースではない方法で）提供されているもので、ここでは通常の電話サービスと内容や番号、端末、もちろん使い勝手がほとんど同じものがIPベースで提供されていることと、通常の地上波放送や衛星放送で提供されているものと同じサービスが光ファイバ、IP技術によって実現され、これまでと同じ家庭のテレビに提供されているということを指す。もう一つのポイントは、これらのサービスをバンドルして1サービスとして提供していること。このサービスを実現している光、IPネットワークは、はじめからこのようなサービス形態を想定して設計されている。日本では価格やスペックの競争により、インターネット接続サービスとして

最高100Mb/sという高速広帯域のサービスが一般的であるが、FastWebではインターネット接続サービスは一つのアプリケーションであり、サービスバンドルを前提にそれに必要な帯域として1ユーザーあたり10Mb/sを割り当てている。利用形態により月額や従量の料金の組み合わせでいくつかのバリエーションが用意されており、月額1万円を超える高いARPUを実現している。

イタリアと日本ではブロードバンドの利用、普及状況に違いがあるので一概には比較できないが、日本の現状をみると1ユーザーあたり10Mb/sの帯域ではもはや戦えないほどであるが、FastWebでは数字的なスペックではなく、サービスの内容や先進性、割安感などでうまく訴求力を出している。

以上述べてきたように、ここで着目するトータルサービスとは、インターネット上でパソコン向けに提供されるコミュニケーションサービスや映像コンテンツ配信サービスなどのインターネットアプリケーションの集合体ではなく、今実際に広く利用、普及

しているサービスを光、IP技術によってネット上で実現し、それらを統合した総合的なサービスとして価値を高めるといふもので、何よりユーザーにわかりやすい。今後の豊かなネット社会の実現に向けて一つの中心となる大きなポイントである。

### IP サービスの特徴

サービス開発という観点から見たIP技術の特徴は、なんと言ってもさまざまなアプリケーション、サービスを共通の技術で比較的安価、容易に実現できることである。

しかし、そのサービスが成功し、普及して行くためには課題も多い。実際に050の番号体系で提供されるIP電話などに見られるように、かなり廉価あるいは無料で提供されているのが現状である。他にもいろいろな新しい機能、サービスが出されているがそれ単独では収益を増やすサービスにはなかなか得ていない。

これにはいくつかの理由が考えられるが、一つは基本的にインターネットには「無料の文化」があり、有料で、しかもそれなりの金額になるサービスがなかなかないこと、もう一つはそもそも新しいサービスを普及させることの難しさ。通信のサービスはユーザーの生活に深くかわるものであるため、新たな習慣として新サービスを浸透させることが必要だ。一般のユーザーにはネットを使ったサービス、ネット特有の新しいサービスはまだまだわかりにくいようだ。まして有料だというこ

とになるとなおさらである。

反対に前述のようなネイティブサービスがネット上で提供されるケースは、サービス内容は今までどおりかそれ以上となる一方で料金はバンドル効果によりトータルで考えれば割安となり、ユーザーにもメリットが大きい。さらに電話の場合はメタル線が、テレビの場合は同軸ケーブルが不要になるなど、これまでにない新しいサービスの価値や内容を説明して理解を得るよりも直感的で非常にわかりやすい。

### 光の普及に向けて

インターネットのヘビーユーザーをはじめ、Bフレッツ利用は確実に進んでいる。今後さらに普及させていくためにはこれまで以上に広いユーザー層を開拓し、ユーザーが必要とするサービスを提供していくことが必要になる。しかしそのための確実な方策はなかなか無く、今後もさらなるチャレンジは続く。

大きな方向性としては、これまで述べてきたように、世の中に浸透しているサービスを光、IPに置き換えることで、より利用しやすい価格、機能を実現、訴求できるサービスを目指していくこと。一方でIPならではの、まったく新しいアプリケーション、サービスを開発して生活に浸透させていくことも重要である。これは相当なアイデアとパワーが必要である。

そしてこれら両方に言えることは、IPの世界の進歩の速さ。これまでに

ない速さで新しい技術が生まれているので、技術的、コスト的に不可能であったものが近い将来現実になることも多い。これらの動向をよく調査、研究しながら、常にチャンスをつねに、粘り強く何度も繰り返しモデル化、サービス化のチャレンジをしていくことが重要である。

私自身、10年前はマルチメディア共同利用実験において、光+ATMをアクセスラインにしたVoD (Video On Demand) 実験を担当していたが、当時は正直なところコストの高さに商用サービス化の希望がなかなかもてなかった。しかし、現在ではIP技術によりフレッツサービスが提供され、さまざまなアプリケーションやサービスが実現されており、そのVoDを実現する要素技術も確実に進化し、7月からはさらにネットワークスが4thMEDIAのサービスを提供開始した。これはネイティブサービス実現の1例である。また、IPテレビ電話としてフレッツフォンの提供も予定されており、利用しやすい端末を利用しやすい価格で実現でき、光、IPならではの新しいサービスとして普及を図っていく。

光の本格普及に向けた可能性の追求、飽くなきチャレンジ。これがモチベーションの原点である。

### お問い合わせ先

東日本電信電話株式会社  
コンシューマ事業推進本部  
ブロードバンドサービス部  
フレッツサービス開発部門  
TEL: 03-5353-4360